

■障害学生支援大学長連絡会議について■

●経緯

筑波技術大学には、他大学の障害学生支援を担当している教職員や組織との交流の中で、「障害学生支援について大学内で理解が得られない」という多くの声が寄せられていた。

障害のある学生の入学者数が年々増加するなか、障害学生支援に関する体制構築や支援策の立案には、学長がその重要性を理解し経営的判断を行う必要がある。そこで、障害学生支援の実情や支援に関する経営判断の事例について共有や意見交換を行う枠組みとして、平成 20 年度(2008 年)から 16 大学(国立9校、私立 7 校)でスタートした。

●目的

障害学生支援が大学の責務の一つであるとの認識の下、すべての学生に対してより良い修学環境や支援体制を更に整備・充実し、誰もが、何時でも自らの選択で学ぶことができる高等教育のユニバーサル・アクセスの実現を図ること。



対面開催の様子



オンライン開催の様子(コロナ禍)

●構成員大学(現在 23 大学で構成)

愛知教育大学、宮城教育大学、筑波技術大学(以上の 3 大学が主幹校)
 北海道教育大学、札幌学院大学、茨城大学、筑波大学、群馬大学、放送大学、東京学芸大学、
 上越教育大学、静岡福祉大学、日本福祉大学、同朋大学、同志社大学、京都教育大学、
 大阪教育大学、兵庫教育大学、関西学院大学、奈良教育大学、鳴門教育大学、四国学院大学、
 福岡教育大学

●開催頻度

年 1 回の開催を原則として、主幹大学が輪番で開催。

●参加者

学長の出席を基本としている。障害学生支援担当の副学長等の出席も可としているが、実務担当者のみの出席は不可としている。

●主な会議内容

- ・最新の政策動向に関する講演
- ・先進的な取組事例の共有
- ・各大学が抱える課題に対する意見交換